

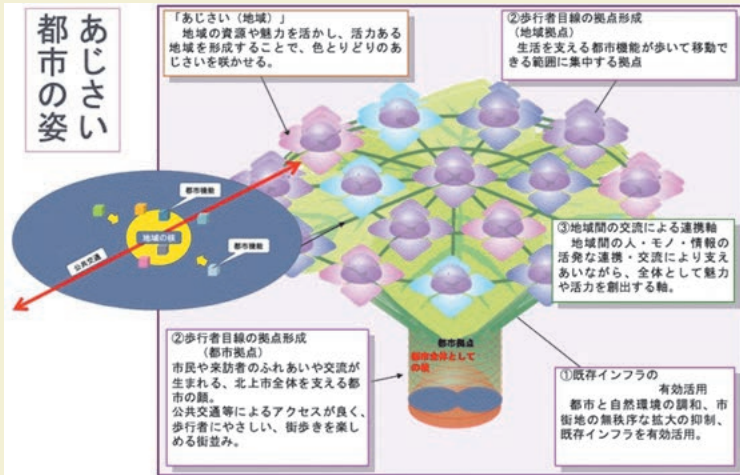
あじさい都市を味わう



たかはしとしひこ
高橋敏彦
きたかみ
北上市長(岩手県)

あじさい都市を市民提案

私が北上市長に就任したのは、東日本大震災があった平成23年4月で、今年で10年目になります。津波による大きな被害のあった岩手県沿岸部ほどではないものの、内陸部の本市も3日間の停電や家屋の全壊、市役所本庁舎をはじめとした数多くの公共施設に少なからず被害があり、市長選挙の延期も懸念されたほどでした。選挙戦に向けた準備の中で、私は人口減少の中であじさい都市を掲げておりましたが、急



あじさい都市のイメージ

きよ方針を転換し、災害に強いまちづくりを全面に押し出して戦ったことを思い出ししております。

本稿タイトルのあじさい都市は、私が代表理事をしていたNPO法人が、国土交通省の公募事業を活用して取り組み、提案した地方都市の理想像です。北上市を構成する16の地域コミュニティが人口減少時代にあって元気づけるための地域の「かたち」を、市民参加のワークショップで考え、北上市に提案しようとしたものでした。結果を図に表した形があじさいに似ていたためこの名称になりました。本市は平成3年4月に3市町村が合併して誕生していますが、合併当時の市長の言葉に「人それぞれ地域もそれぞれ それぞれに咲く あじさいの花の如くに」とあったのを記憶していたのかもしれませんが。

本市の人口は9万人余で、岩手県のほぼ中央に位置し、北上川と和賀川の合流点にあります。JR北上線の終着駅でもある東北本線北上駅は、同時に東北新幹線の駅でもあり、東北縦貫自動車道と東北横断道秋田線も交差する北東北の十字路とも言えるべき交通の要衝です。歴史的には盛岡藩と仙台藩の藩境に位置し、宿場町や北上川舟運の川港としても栄えました。近年は企業誘致に力を入れ、10カ所、約700haの工業団地に全国から約240社の企業が立地しています。しかし、他の地方都市と同様に、



男山から望む北上川と市街地

郊外型店舗の乱立で中心市街地は活力を失い、周辺地域は人口減少に歯止めが掛からない状況でした。

SDGsなあじさい都市

あじさい都市は国土交通省が進める「コンパクト&ネットワーク」の政策に近いのですが、本市の特徴はそれに「まち育て」の概念を加えたことだろうと思います。私が「まち育て」を意識し出したのは、建築家として景観まちづくりに関わっていた頃、弘前大学北原啓司教授との出会いがきっかけでした。私が理解した「まち育て」の概念



黒岩地区のまち育て公園「お滝さん」

は、まちや地域の将来を考えるに当たって、地域に無いものを数えるのではなく、今ある地域資源を大切に生かすということでした。その活動によって、地域に素晴らしい景観と市民の誇りが育つ、という考え方に強く共感したことを覚えています。北原先生には現在でも、本市の都市計画をはじめとしたまちづくり全般にアドバイスをいただいています。

あじさい都市は持続可能で全ての地域を取り残さない、まさにSDGsなまちづくり政策です。現在、「拠点」「ネットワーク」

「まち育て」の三つの戦略で政策を進めています。拠点を戦略では、16地区の「地域拠点」と都市の要となる二つの「都市拠点」で、人に優しく魅力ある都市空間に再構築しようとしています。ネットワーク戦略では、車が無くても、またIT技術に疎くても、必要な

サービスや情報に容易にアクセスできる環境を整備しています。そしてまち育て戦略では、市民が自ら地域の将来を考え、地域資源を生かしながら行政などの協働でまちづくり活動ができるよう、自治基本条例や地域づくり組織条例、まちづくり協働条例を制定して、その環境を整備してきたところです。近年は地域内交通を地域自らが運営したり、養蚕を新たな形で復活させて地域産業を元気にしようという試みなどもあり、それぞれの地区で少しずつ成果を見せ始めています。

あじさい都市を味わう

あじさいの花にはさまざまな種類があり、それぞれの色や形で咲き誇るように、地域もまたそれぞれに輝いています。そんな地域を眺めながら、私は趣味のロードバイクで毎朝のように地域を走り回っています。初めはメタボ対策で始めた自転車ですが、今では本市のイベントである夏油高原

ヒルクライムに参加したり、東北各地のファンライドに夫婦で出場するのが楽しみになっています。時折、目に留まった景色をフェイスブックで投稿した際、同じく自転車を愛好する菅・今治市長さんからお誘いをいただき、自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会の立ち上げに関わらせていただきました。自転車はあじさい都市のネットワーク戦略である公



新城ロードを走る新城氏(右)と筆者(中央)

公共交通を補完するだけでなく、市民の健康や観光にも効果がある万能ツールになり得るので、良いご縁をいただいたと感謝しています。

晴れた休日などによく走るのが市内16地区を巡るサイクリングコース、新城ロード100です。このコースは全長100kmの一般道ですが、東京オリンピック自転車男子ロードレースの有力候補の新城幸也選手に監修していただきました。彼は本市の友好都市、沖縄県石垣市のご出身であることから実現したものです。季節ごとに変わる景色を愛めながら、時に地域の皆さんと言葉を交わし、地域それぞれの元気を肌で感じる、まさにあじさい都市を日々味わうことを楽しんでいきます。